

# 久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 231号

平成23年4月28日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989

FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で…

久慈農業改良普及センター 公式

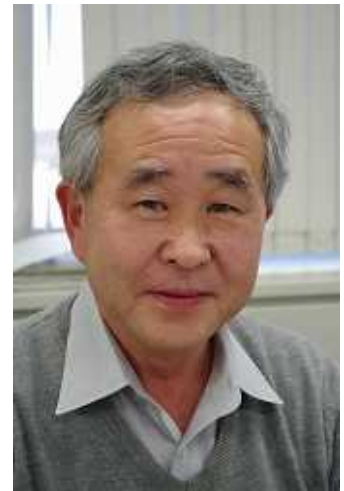
検索

## 新年度を迎えて ～ 所長あいさつ～

今年は広域振興局体制2年目となり、4年計画の『新普及計画』推進の1年目に当たる年で計画推進のために所を挙げて取り組んでおります。しかしながら3月11日に発生した東日本大震災により管内も野田村を中心に甚大な被害をこうむり、復旧・復興支援が活動の第一課題になっております。

漁業基盤や居住施設への被害が甚大ですが、水田を中心とした農地やハウス等にも大きな被害を与えております。普及センターとしてはマッピングし、除塩指導等に全力をあげております。

あわせまして新普及計画の中で重点的に取り組む『意欲ある多様な経営体の育成』『農業の産地力強化』『農村の活性化』を3本柱に8課題の推進にあたります。



所長 たかはししichi 高橋寿一

昨年、管内のブランド品目のほうれんそうは猛暑の中で大変苦労した生産となりました。今年は昨年の教訓を踏まえ、『暑い夏でもこうすればほうれんそうは取れる、久慈のほうれんそう V字回復作戦』を展開します。栽培を始めて長く経過したハウスも多くなっているため『萎ちょう病』克服のためには『土壌消毒』の必須なハウスが多くなってきております。これまで、夏のほうれんそうは、夏季冷涼な気象環境にも支えられ『雨よけ栽培』で高収量を確保してきました。昨年のように最近の気象は変動が大きく、夏の気象は温暖化の中で高温出現年も多くなる中で『ヤマセ』が弱く、吹かない年が多くなるとともに、冬季の大雪等でハウス倒壊等の災害も発生しております。

宮沢賢治が『雨にもまけず』で

『雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ』と歌っているように部会員一丸となり、気象変動に抗する知恵と技術力を組み合わせた取り組みが求められております。

その取り組みにより日照りのときでも涙を流さず、寒さの夏は元気に作業し、商品作りを徹底し、クレーム0を目指して消費者にPRしてより収益性の高い久慈のほうれんそうブランド産地を目指しましょう。

春本番を向かえ、農繁期となってまいりました。震災の復旧・復興の取り組みもこれから本格化してまいります。農作物の管理や農作業安全、家族全員の健康管理にも気をつけていただき、それぞれの生産者の皆さんが実りのある良い年となるように願っております。

**今年も春から、皆さん！ 元気で頑張りましょう。**

## 平成23年度 久慈農業改良普及センター活動体制

今年度も昨年と同じ17名体制で、意欲ある多様な経営体の育成、農業の産地力強化、農村の活性化支援の3本柱をメインテーマとし、地域課題の解決のためチームの連携により農業者に対する支援を進めてまいります。

### 人事異動情報


















今回の人事異動により久慈農業改良普及センターから転出された方は以下のとおりです。

飯村技術主幹	中央農業改良普及センター（北上市）
小野寺普及課長	農業研究センター（北上市）
中西主任	県北農業研究所（軽米町）
高橋(昌)上席	二戸農業改良普及センター（二戸市）

### 内部異動情報

佐藤普及課長が産地育成チームから担い手育成チーム担当へ、高橋(好)上席が産地育成チーム担当課長に昇格した以外は内部での担当変更及び異動はありません。

【 職員分担 】 各課長は ~ のチームの担当です。(新)転入、(転)内部移動

マネジメント グループ					
	所長 高橋 寿一	技術主幹兼普及課長 (新)白木 正範 (農村活性化チーム)	普及課長 (転)佐藤 正昭 (担い手育成チーム)	普及課長 (転)高橋 好範 (産地育成チーム)	
	チーム長	メンバー			
担い手育成チーム ・ 新規就農者、認定農業者の育成 ・ 集落型経営体の育成 ・ 稲作の省力・低コスト化と耕畜連携					
	上席農業普及員 大里 達朗	主査農業普及員 (新)吉田 昌史	農業普及員 菅 広和	技師 熊谷 志紀子	
産地育成チーム ・ ほうれんそうなど園芸の産地育成 ・ 土地利用型野菜 ・ 売れる米づくり ・ 環境保全型農業					
	上席農業普及員 伊藤 美穂	主任農業普及員 小川 陽	農業普及員 高橋 大輔	農業普及員 (新)洞口 博昭	臨時職員 (新)岩脇 和弘
農村活性化チーム ・ 産直起業支援 ・ 地産地消・食文化の推進 ・ ヤマブドウ振興					
	上席農業普及員 (新)三浦 晃弘	主任農業普及員 小田 豊	農業普及員 成田 恵美	技師 菊池 奈美	

今年度の転入者(5名)の自己紹介

【 名前 出身地 担当 前任地 ひとこと 】

名前：白木正範(しらき まさのり)  
出身地：盛岡市  
担当：総務及び農村活性化チーム  
前任地：二戸農業改良普及センター  
ひとこと：昭和55年頃に、やませ営農試験を担当しており、久慈市の侍浜には週1回のペースで調査に来ていました。当時の営農試験地の成果が花開きホウレンソウの大産地になっており感無量です。

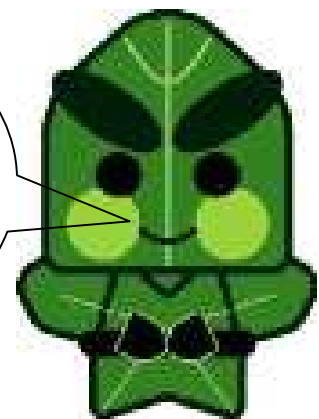
名前：三浦晃弘(みうら あきひろ)  
出身地：滝沢村(大船渡生まれ)  
担当：農村活性化  
前任地：盛岡農業改良普及センター  
ひとこと：大変な事になってしまいましたが、地域に元気が出るような活動をしたいと思っています。おしゃべり好きなので、気軽に声をかけてください！

名前：吉田 昌史(よしだ あつし)  
出身地：花巻市  
担当：担い手育成  
前任地：中央農業改良普及センター  
地域普及グループ  
ひとこと：久慈は、はじめて赴任します。楽しく仕事ができるようにやっていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

名前：洞口博昭(ほらぐち ひろあき)  
出身地：釜石市  
担当：産地育成チーム  
(野菜：ほうれんそう)  
前任地：農業研究センター  
ひとこと：初めての久慈、初めての野菜(ほうれんそう)担当です。沿岸から元気を発信できるよう、頑張ろうと思いますので、よろしくをお願いします。

名前：岩脇和弘(いわわき かずひろ)  
出身地：久慈市  
担当：産地育成  
前任地：臨時職員(産休代替)  
ひとこと：まだ慣れていない仕事などもありますが、分からないことは皆さんに教えていただいて頑張っていこうと思っています。1年間よろしくをお願いします！

よろしく  
お願いします。



寒次郎

久慈地方寒じめほう  
れんそうイメージキャラクター

## 平成22年度 普及活動外部評価について

～ 外部評価委員3氏による普及活動に対する助言をいただきました～

岩手県では、普及活動を一層効果的・効率的に展開するため、地域の有識者・農業者から幅広い視点で普及活動を評価していただき、その結果を次年度以降の活動に反映することを目的に、外部評価を行っています。

久慈農業改良普及センターでは、3名の方々を外部評価委員に委嘱し、2月24日に「平成22年度普及活動外部評価会議」を開催しました。

今回の評価会議では、10の普及課題の中から3つの課題について取り組み内容を紹介し、計画策定段階、活動実施過程段階、活動結果・成果段階、総合評価の4つの視点で意見交換を行いました。

その中で、「地域の農業の5年後、10年後を見据えた長期ビジョンの中で活動を行って欲しい。後継者育成がカギとなるので、若い人たちに地域現実を理解していただき、また若い人たちの仲間作りが将来の財産になることを常に念頭に置いて活動して欲しい」とのご意見をいただきました。

職員は、今後の活動の中に反映させながら取り組んでいくことを確認し合いました。

## エコファーマーマークの使用停止について



エコファーマー  
マーク

エコファーマーの皆様へ

エコファーマーマークの使用停止について

全国環境保全型農業推進会議により制定されたエコファーマーマークについて、その適正な使用確保の観点から、現行のマークについては平成23年3月末をもって使用が停止されることとなりましたのでお知らせいたします。

なお、包装材等の在庫があることが想定されるため、平成24年3月末までの1年間については猶予期間とされております。

詳細については、全国環境保全型農業推進会議のホームページをご確認願います。

アドレス <http://www.ecofarm-net.jp/05ecofarmer/index.html>

(岩手県公式ホームページより抜粋)

平成23年度農作業安全運動スローガン

**農作業 無事故でつなぐ 明るい未来**

4月15日～6月15日は春の農作業安全月間です。

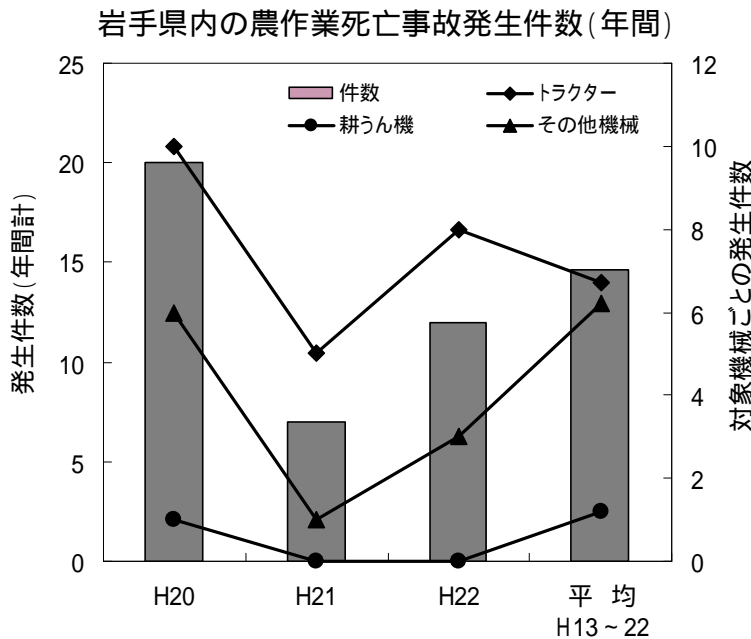
県内における農作業中の死亡事故は、過去5年間(H18～22)で74件発生しており、昨年度は12件発生しました。

農作業事故の危険性に対する認識を持ち、事故防止に向けた取り組みをお願いします。圃場



内外を問わず事故が発生していることから、道路交通法の遵守や道路上及び敷地内等における事故防止に対しての意識も重要です。

また、平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波による圃場や道路の損傷、地盤のゆるみなどが生じており、例年以上に『作業前点検』が重要となります。



### 反射材等の装着

道路上での接触・追突等の事故を防止するため、反射シール、反射材、低速車マークを利用しましょう。

### 農業機械の始業前点検

家庭での安全管理の徹底として、万が一の時のために作業員以外でも農業機械のエンジンを停止できるように動作の確認や、始業前の安全確認を行ないましょう。

### 地域や家庭での取り組み

農作業事故防止に向けて家族ぐるみ、地域ぐるみでの取り組みが重要です。日常の『声かけ』を積極的に行ないましょう。

トラクターによる農作業死亡事故が例年最も多い!!

## 山火事に注意しましょう!!

近年の山火事発生状況を見ると、約7割が3~5月に発生しており、この時期は山火事の危険性が非常に高くなっています。山火事の多くが、野焼きやたき火などから発生していますので、風が強い時や乾燥している時は、野焼き等はしないようにしてください。

〔参考：近年の山火事発生状況〕

年	発生件数		焼損 区域面積	発生原因				
		うち3~5月		たばこ	たき火	火入れ	野焼き	その他
20	61件	42件	176.42ha	6件	14件	11件	16件	14件
21	56件	42件	12.63ha	1件	15件	8件	12件	20件
22	25件	12件	4.57ha	2件	8件	1件	10件	4件

### 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れ、野焼きをしないこと

枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火、野焼きをしないこと

火入れを行う際、許可を必ず受けること

たき火等の場所を離れるときは完全に消火すること

たばこの吸いがらを投げ捨てないこと

火遊びはしないこと

火の取り扱いに十分に注意し、一人一人の心がけで山火事を未然に防ぎましょう。